



Q：手指の関節の痛みがあります。関節リウマチでしょうか。

A：関節リウマチは自己免疫疾患の一つで、主に手足の関節を侵し、関節痛、関節の変形を生じる病気です。ただし、関節だけの病気ではなく全身の炎症性疾患であり、しばしば血管、心臓、肺、皮膚、筋肉など全身の臓器に障害が及びます。

初期症状としては「朝のこわばり」と呼ばれる、朝起きてしばらくの間、手を握ることが困難で、こわばるのが特徴です。やがて関節痛が起るようになりますが、最初は手指または足指の関節が侵さ

れることが多く、次第に手首、肘、膝など、体の中心に近い大きな関節に痛みを生じるようになります。進行すると関節そのものが変形していきます。

手指の関節痛という点で、鑑別すべき病気に、変形性関節症があります。これは、老化によって関節軟骨がすり減って、周囲の骨が変形するもの。指の一番先の関節に起こる「ヘバーデン結節」と呼



ばれるものが最も多いのですが、関節リウマチでは左右複数の関節に症状がみられ、とくに第一ではなく第二関節に症状が出るのが特徴です。

岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F)

☎0555・2888・1800